MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２３．４．１８　発行元
第 468 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

呉勝浩「爆弾」

『このミステリーがすごい！』で２０２２年の年間ランキング第一位に輝いた呉勝浩の『爆弾』をようやく読んだ。昨年４月講談社刊。世の中の評価と自分の「ミステリ読み」としての感覚のずれを感じたりする。

間違いなく面白いのだけれども…

年間一位の作品なので大いに期待をして読み始めた。でも、１００ページ読み進めても、スタート時の状況とほとんど変わらないので唖然とした。野方署に酒店前の自動販売機を蹴りつけ、出てきた店員に暴力をふるったということでスズキタゴサクと名乗る男が連れてこられた。その取り調べの場面が延々と続く形なのだ。

日常のどこでも起こりうる小さな出来事なのだが、スズキが秋葉原で起きた爆発事件を示唆し、予言のように次々爆発させると話し始めたので、警察が慌てて動き始める流れになる。予備知識なしに読み始めると物語の先が見えないのでイライラ感が湧いてしまう。

長口上の演説風の会話が…

私が苦手だと思うのは、取り調べのやりとりの会話文が長いこと。長い長いセリフであり、なおかつ調べる方も調べられる方も本心を隠しての探り合いの展開で、空回りの演説が続く。「ちょっと私には合わない作品だな」と思ってしまう。

スズキが取り調べを担当する警察官とだらだらと会話を長引かせ、次の爆発地点のヒントを細切れに提示していく作戦であることが本作品の中心部分だということは十分に理解できるのだが、世の中の有り様についての蘊蓄が読んでいる方には苦しい。

でも、世の中にはそういう箇所に面白さを感じる読者もいるのだろうから「第一位」になるのだとも思う。「今風のミステリ」がこういう形なのだとすれば、私は当然「古風なミステリ」好みの読者ということになるのだろう。

「警察小説」に見える「ノワール」

一見『警察小説』に見えて、取り調べに当たる清宮、類家、伊勢をはじめとして、外回りを担当する警察官の動きも描写されていく。ただ、単純に『警察小説』でないのは、各警察官の内面の感情を描くことにかなりの分量が割かれていることである。スズキの「大演説」を含めて、登場人物の「思い」を語らせるところが現在の小説であり、「ノワール」らしい点でもある。

ここが「ハードボイルド」とは違う方向性で、私が求めるミステリとは「違った世界」だなと思ってしまう。「謎の解明」よりも「感情の放出」が前面に出てしまう流れに私は賛成しない。

後半は圧倒的に面白い

中盤以降は、スズキと捜査陣の「やり取り」が読みどころの中心と判明するので、そこからはノンストップで読める。都内全域に爆弾が配置されていて、スズキが出す僅かなヒントからタイムリミットのある活動へと転換していく。

かつて自殺した刑事の話やその家族、当時の周りの刑事たちの気持などを複雑に組み合わせて結末に持っていく流れにしている。プロローグに登場する「細野ゆかり」の効果は今一つの気もする。

呉勝浩という作家

私が呉勝浩作品を読むのは本書が初めて。２０１５年『道徳の時間』で江戸川乱歩賞受賞だが、それほど話題になった記憶はない。その後、２０２０年『スワン』で日本推理作家協会賞を取り、着実に実力を高めてきているようだ。

結城真一郎『＃真相をお話しします』

昨年６月に新潮社から出た本。『このミス』年間ランキング第１３位にランクされた本。本書に収録されている『＃拡散希望』が日本推理作家協会賞短編部門を受賞している。私はこの結城真一郎という作家の作品を読むのは本書が初めて。２０１８年に『名もなき星の哀歌』で新潮ミステリー大賞を受賞した人だという。本書は現在も新刊書店で平積みされており、ベストセラー本になっているようだ。表紙の装画が目を引き、その力も大きいかもしれない。

５話収録の短編集。とても読みやすい。私は巻頭の『惨者面談』が一番気に入った。「家庭教師のアットホーム」の営業を担当している片桐の視点で描かれている。社長の宮園から電話連絡があり、「矢野さん」という家から新規の申し込みが取れそうなので行ってくれと指示が出る。言われた家を訪ねると、「ちょっと待ってくれ」と言われ、しばらくして家の中に入り、小学六年生の男の子と母親と会話が始まる。最初から最後まで伏線が張られていて、読者は翻弄され、最後に真相を明かされる流れになる。読者向けに仕掛けられた罠。長岡弘樹の登場の時もそう思ったが、鋭い切れ味が特徴。今後、短編中心の路線で進むのか、それとも長編に軸足を移すのか興味のあるところ。以前の作品の文庫化も進んでいるようなので、読んでみようと思う。